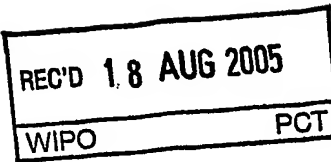


特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
[PCT36 条及び PCT 規則 70]



出願人又は代理人 の書類記号 C40216	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/010488	国際出願日 (日.月.年) 23.07.2004	優先日 (日.月.年) 23.07.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ G06F12/00, 13/00, H04N7/173		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社アイ・オー・データ機器		

- この報告書は、PCT35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 5 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
 - ☐ 附属書類は全部で ページである。
 - ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)
 - ☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
 - ☐ 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。(実施細則第 802 号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第 II 欄 優先権
- ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第 V 欄 PCT35 条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献
- ☐ 第 VII 欄 国際出願の不備
- ☒ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 12.08.2004	国際予備審査報告を作成した日 02.08.2005		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 涌井 智則	5M	3450
電話番号 03-3581-1101 内線 3599			

様式 PCT/IPEA/409 (表紙) (2004 年 1 月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)という国際調査
☐ PCT規則12.4という国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3という国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に回答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第_____ ページ、出願時に提出されたもの
 第_____ ページ*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第_____ ページ*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第_____ 項、出願時に提出されたもの
 第_____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第_____ 項*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第_____ 項*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第_____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第_____ ページ/図*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第_____ ページ/図*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第_____ ページ
☐ 請求の範囲 第_____ 項
☐ 図面 第_____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第_____ ページ
☐ 請求の範囲 第_____ 項
☐ 図面 第_____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	19-21	有
	請求の範囲	1-18	無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-21	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-21	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献1: JP 9-81431 A (富士ファコム制御株式会社)
1997. 03. 28, 全文, 全図 (ファミリーなし)

文献2: JP 5-53896 A (富士ゼロックス株式会社)
1993. 03. 05, 全文, 全図 (ファミリーなし)

文献3: JP 2001-154995 A (株式会社東芝)
2001. 06. 08, 全文, 全図 (ファミリーなし)

文献4: JP 3-111948 A (日本電気株式会社)
1991. 05. 13, 全文, 全図 (ファミリーなし)

請求の範囲 1-14

国際調査報告で引用された文献1-2にも記載されているように、ネットワークに接続されたマスタ及びスレーブに格納されているファイルの情報を記録したディレクトリリストを、マスタにおいて統合し、統合したディレクトリリストをマスタからスレーブに配信する技術は周知の技術である。加えて、統合ディレクトリリストを指定された検索条件で検索し表示することも、文献1-2にも記載されているように周知の技術である。

よって、請求の範囲 1-14に係る発明は、新規性、進歩性を有しない。

請求の範囲 15-16

国際調査報告で引用された文献1-2にも記載されているように、ネットワークに接続されたマスタ及びスレーブに格納されているファイルの情報を記録したディレクトリリストを、マスタにおいて統合し、統合したディレクトリリストをマスタからスレーブに配信する技術は周知の技術である。加えて、統合ディレクトリリストを指定された検索条件で検索し表示することも、文献1-2にも記載されているように周知の技術である。

よって、請求の範囲 15-16に係る発明は、新規性、進歩性を有しない。

請求の範囲 17-18

請求の範囲 15-16 に対する理由に加えて、
国際調査報告で引用された文献1には、マスタが離脱した場合にマスタを交代することも記載されている。

よって、請求の範囲 17-18に係る発明は、新規性、進歩性を有しない。

第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 9 の末尾に、「請求の範囲第 7 項に記載のマルチメディア情報機器ファイル管理プログラム」と記載されているが、請求の範囲 7 の発明は「マルチメディア情報機器」であり、記載が統一されておらず不明瞭である。
(請求の範囲 9 の末尾は、「請求の範囲第 8 項に記載のマルチメディア情報機器ファイル管理プログラム」の誤記ではないかと思われる。)

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V.2 欄の続き

請求の範囲 19

請求の範囲 15-16 に対する理由に加えて、ネットワーク上のシステムにおいて、同一ファイルが複数の情報機器に存在する場合に、より速く転送が行える情報機器からファイルを転送することは通常に行われていることである。

よって、請求の範囲 19 に係る発明は、進歩性を有しない。

請求の範囲 20-21

請求の範囲 15-16 に対する理由に加えて、国際調査報告で引用された文献 3-4 にも記載されているように、ネットワーク上のシステムにおいて、ファイルをより高速な情報機器に再配置し、ファイルの配置を最適化することは周知の技術である。

よって、請求の範囲 20-21 に係る発明は、進歩性を有しない。